

研究タイトル:近現代日本女性文学研究—佐多稲子を中心に

| | | | |
|-----------------|--|---------|-----------------------|
| 氏名: | 小林美恵子 / KOBAYASHI Mieko | E-mail: | mkoba@numazu-ct.ac.jp |
| 職名: | 教授 | 学位: | 博士(文学) |
| 所属学会・協会: | 日本近代文学会 日本社会文学会 佐多稲子研究会 ほか | | |
| キーワード: | 女性 近現代日本文学 戦時下 昭和 少女小説 | | |
| 技術相談 提供可能技術: | <ul style="list-style-type: none"> ・近現代日本女性文学 ・昭和戦時下社会 ・少女小説 ・戦争文学 | | |

研究内容:

日本女性のここ150年ほどの激変・進歩は目覚ましいものがあります。その時々女性の姿を正確・克明に描いた女性作家たちの手による小説群は歴史遺産とも呼べる一級資料といえるでしょう。現在ですら社会の第一線に身を置くことが少ない女性たちの歴史は、だからこそ多様性に満ちており、文学作品によってさまざまなヒロインのドラマを知ることが、女性のマンパワーを不可欠とする次世代に向けても大きな価値を持つと思われまます。

1 佐多稲子研究

研究の第一歩は、プロレタリア作家の佐多稲子(1904~1998)からスタートしました。慰問行為や執筆内容について、戦後戦争責任を問われた佐多が、戦時下どのような小説を書いていたのか調査・分析し、その多くが戦時下の女性の様々な痛みを掬い上げるものであり、それによってぎりぎりの抵抗が読み取れることを指摘、佐多の評価に一石を投じました(『昭和十年代の佐多稲子』(双文社出版、2004年)。



2 女性文学研究へ

佐多研究と並行して、所属研究室の『青鞥』研究に参加、明治・大正期に遡り、家父長制下の女性の受けた抑圧と、その中で生み出された自由を求めるムーブメントの激しさを、『青鞥』参加者の調査や掲載作品の研究に携わる中で実感し、文学を通して女性の歴史に触れることが、当時を生きた女性の肉声を聞くことであると実感しました。

そこから、吉屋信子・林芙美子・平林たい子など女性作家の作品に関心が集中するようになり、桐野夏生・角田光代ら現代作家についても研究対象に取り上げるに至りました。

3 少女小説・児童文学研究／今後の目標

上記のような研究活動を経て、2005年ころから、日本で初めて少女小説を体系的な研究対象として取りまとめた『少女小説事典』(東京堂出版、2015)編纂に加わることができました。その作業の過程で、幼いころに読んだ物語や小説が、人の自己形成に強く影響していることに思い至り、少女小説・児童文学研究にも関心を広げることになりました。現在は富士市出身の吉田とし(1925~1988)の業績をまとめることができましたと考えています。

今後も引き続きより多くの女性文学に触れ、研究の幅を広げていきたいと願う一方で、男性作家の作品も一から読み直し、双方の関係を視野に入れながら、改めて女性文学という領域の意義を考えてみたいと思っています。

なお、現在佐多稲子研究会は佐多稲子の1967年から1974年までの日記翻刻に取り組んでおり、私はその中の1970年を担当、三島由紀夫の自殺やよど号ハイジャック事件のあった年へのタイムスリップを満喫しています。発表は佐多稲子研究会『くれない』第13号誌上、刊行予定は2021年6月です。

提供可能な設備・機器:

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |

教
養
科